

令和4年度
中学校教育課程編成の手引
【各教科等編】

美術科における
1人1台端末を活用した
「個別最適な学びと協働的な学び」

北海道教育委員会

美術科における 1人1台端末を活用した 「個別最適な学びと協働的な学び」 (中学校)

1 題材の概要

学 年：第3学年

題 材 名：「今を生きるあなたに ～ It's my world ～」10時間扱い

題材の目標：自分自身の内面を見つめることで作品の主題や表現意図を明らかにし、構図や表現方法を工夫しながら自身の思いや願いを表現する作品を制作する。

2 事例におけるICT活用のポイント

- ・ 作品の主題を生み出す場面において、1人1台端末を活用して自身の内面を可視化したり、作品のイメージをまとめたりすることにより、主題を明確にすることができます。
- ・ 作品の構想を練る場面において、クラウドサービスの共有機能を用いて主題や制作意図を伝え合うことにより自らの構想を深めるとともに、造形に対する客観的な見方や考え方を育むことができます。

3 使用したソフトや機能

- ・ 学習支援ソフトのファイル共有機能

【参考資料】

- ・ StuDX Style
各教科等における1人1台端末の活用
各教科等での活用〔中学校 美術・事例〕
(文部科学省)



美術科における1人1台端末を活用した 「個別最適な学びと協働的な学び」 (中学校)

4 1人1台端末の活用例

【ICTの活用場面①】



〔思考ツールを用いてイメージをまとめ、主題を明確にする〕

- ・主題を生み出す場面において、端末の思考ツールを活用して自身の内面を可視化したり、作品のイメージをまとめたりすることで、主題を明確に捉えることができます。
- ・端末を活用することで、画像を活用した楽しく独創的な表現が容易にできます。

【ICTの活用場面②】



〔生徒個々の主題を鑑賞し、構想を深める〕

- ・クラウドサービスの共有機能を用いて、一人一人の主題を伝え合うことにより、友達の主題と比較しながら、自らの構想を深めることができます。
- ・友達の主題や制作意図に幅広く触れることにより、造形に対する客観的な見方や考え方を育むことができます。

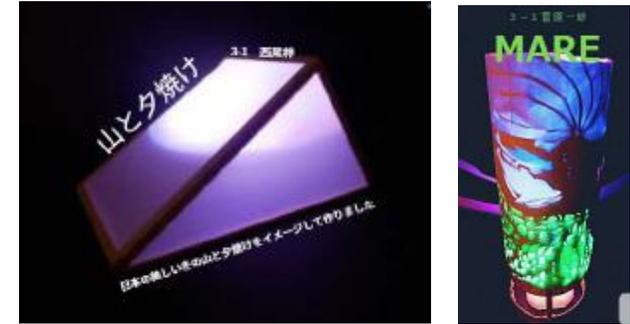
美術科における1人1台端末を効果的に活用した授業改善のポイント

美術科においては、ICTを活用する学習活動と、実物を見たり対象に触れたりするなどして感覚で直接感じ取る学習活動とを吟味して行う必要があります。

① 「A表現」の指導におけるICT活用の考え方

「A表現」におけるICT活用として、電子黒板や視聴覚機器などを用いて表現方法を提示したり、映像メディアを活用して生徒の表現の可能性を広げたりすることが考えられます。

中でも、映像メディアによる表現は、生徒の表現の幅を広げることができるほか、アイデアを練ったり編集したりするなど、発想や構想の場面でも有効に活用することができます。



端末を用いて作成した作品紹介ポスターの例

② 「B鑑賞」の指導におけるICT活用の考え方

「B鑑賞」の学習では、実物と向かい合い、作品のもつよさや美しさなどを実感しながら鑑賞することが難しい場合、端末やネットワークを活用して鑑賞を行うことが考えられます。

ICTを活用することにより、作品の細部を拡大して鑑賞したり、様々な美術館の作品をウェブ上で鑑賞したりすることができます。

【参考資料】

・ 中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）の指導におけるICTの活用について（文部科学省）



・ 音楽、図画工作、美術、工芸、書道の指導におけるICTの活用について（文部科学省）

